



平成28年6月27日

各位

会 社 名 オンコリスバイオフーマ株式会社
代 表 者 名 代表取締役社長 浦田 泰生
(コード番号：4588)
問 合 せ 先 常 務 取 締 役
管 理 担 当 六反田 靖
(TEL. 03-5472-1578)

OBP-1101 (テロメスキャン F35) に関する 日本における特許査定のお知らせ

当社は、現在がんの体外検査薬として開発を進めている OBP-1101 (テロメスキャン F35) について、CTC 検査方法に加え新たにウイルス構造に関する日本特許出願の特許査定を受けましたので、下記の通りお知らせいたします。

テロメスキャン F35 は、テロメスキャン® (OBP-401) の基本構造をもったウイルス遺伝子配列に CD46 蛋白結合モチーフを組み込むことで感染効率を高める一方、マイクロ RNA (miR-142-3p) を組み込むことで、正常な血球細胞での増殖を抑制し、血中がん細胞 (CTC) の特異的な検出能力を高めた新規がん検査用ウイルスです。これまでの技術では検出が困難であった悪性度の高い生きた血中のがん細胞を検出し、更にはその遺伝子検査も可能にすることが期待されています。この技術が、がんの超早期発見、予後モニタリング、または治療薬選択の一助となることを目指して、当社は現在も国内外の研究機関及び企業と開発を進めております。

平成 27 年 10 月 20 日発表の『OBP-1101 (テロメスキャン F35) に関する日本における特許登録のお知らせ』にありますとおり、テロメスキャン F35 によるがんの体外検査方法をカバーする日本特許は既に登録されておりますが、今回特許査定を受けた日本特許出願は、ウイルスの構造に関するものです。今回の特許査定により、日本におけるテロメスキャン F35 の特許保護期間は最長で 2032 年 2 月まで延長されることとなります。また、本ウイルスの日本特許は、国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所により出願されていますが、当社は同研究所から平成 23 年 4 月にテロメスキャン F35 の全世界における独占的な実施権の許諾を受けています。

当社は、今後もテロメスキャンの開発促進及び知的財産権の強化を図ると共に、高い医療現場ニーズを充足することを目指し事業活動を展開して参ります。

なお、本件による本年度業績への影響はありません。

以上